

課題名

キウイフルーツの結果枝長及び葉果比と果実の形質との関係

成果の要約

果実重は葉果比が高くなるほど大きくなり、摘果時の葉果比9、結果枝長50cm程度の枝で最大となった。

成績

7年生ハイワードを供試し、環状はく皮を処理した場合としない場合について結果枝の長さとう葉果比が果実の形質に及ぼす影響を検討した。

- (1) 果実重は葉果比が高くなるほど大きくなり、特に環状はく皮処理区で顕著であった。
- (2) 収穫直後の果実の糖度は葉果比で3と6以上、結果枝長で短(摘果時の新しょう長20cm程度)と中(同50cm程度)以上の間に違いがみられた。また、環状はく皮処理区が無処理区に比べ、高い傾向にあった。
- (3) 追熟後の果実の糖度は環状はく皮処理区で葉果比の増加に伴って高くなり、葉果比9—結果枝長中の区で最も高かったが、環状はく皮無処理区では一定の傾向はみられなかった。また、収穫直後と同様に環状はく皮処理区が無処理区に比べ、高い傾向にあった。

第1表 結果枝長 葉果比と果実重の関係

結果枝長 葉果比	環状はく皮処理			環状はく皮無処理		
	短	中	長	短	中	長
	(g)	(g)	(g)	(g)	(g)	(g)
3	113.3	115.0	—	105.5	119.1	—
6	137.1	139.5	137.2	103.1	116.8	108.1
9	—	157.0	147.9	—	123.8	120.4

概要

第2表 結果枝長、葉果比と収穫直後の糖度の関係

結果枝長 葉果比	環状はく皮処理			環状はく皮無処理		
	短	中	長	短	中	長
3	6.0	6.3	—	5.6	6.3	—
6	6.3	6.9	6.9	5.3	5.9	5.7
9	—	6.7	6.8	—	5.8	5.7

(昭59 長崎果試)

要